

コード	101020103
記入日	H23.6.2

事務事業途中評価表

課コード	105
課名	総合政策課
課長名	石田 信明
担当者	永田 真樹夫

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	EVタウン駐車場整備事業
----------	--------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	2
施策コード	101	施策名称	魅せる観光のしまづくり	項コード	1
基本事業コード	10102	基本事業名称	新たな観光資源の開発とネットワーク化の推進	目コード	2
事務事業コード	1010201	事務事業名称	観光振興事業費	細目コード	1247
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	一般観光客及びツアー観光客	(対象指標1)	197,591人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・世界遺産構成資産の教会を中心に町内の主な教会に駐車場を整備し、観光振興に寄与する。	・平成21年度の繰越事業の頭ヶ島地区駐車場について整備完了した。 ・平成22年度整備予定であった大曾地区駐車場について用地交渉の調整に時間を要したため平成23年度に繰越事業となった。	① 駐車場整備	3箇所	33%	駐車場整備箇所数+駐車場整備全体数	平成23年度
		② 駐車場整備	1箇所	50%		平成22年度
		(達成率分析)	平成21年度の繰越事業の頭ヶ島地区駐車場について整備完了した。平成22年度整備予定であった大曾地区駐車場について用地交渉の調整に時間を要したため平成23年度に繰越事業となった。			
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・世界遺産の登録に向けた環境整備と観光客の増加が予想されるが、周辺景観に配慮した利便性の高い駐車場を整備することにより、いっそうの集客を図るとともに、その利便性の向上・確保に供するため駐車場を整備するものである。		① 駐車場	3箇所	33.0%	駐車場整備箇所数+駐車場整備全体数	平成23年度
		② 駐車場	1箇所	50%		平成22年度
		(達成率分析)	平成21年度の繰越事業の頭ヶ島地区駐車場について整備完了した。平成22年度整備予定であった大曾地区駐車場について用地交渉の調整に時間を要したため平成23年度に繰越事業となった。			
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 箇所	3	1	0	2	1				
	②									
成果指標	① 箇所	3	1	0	2	1				
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	37,820	21,101	700	37,120	20,401				
直接事業費 A	千円	36,420	19,701		36,420	19,701				
人件費 B	千円	1,400	1,400	700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.2	0.2	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	23,673	12,805		23,673	12,805			
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	14,147	8,296	700	13,447	7,596				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	世界遺産登録に向けた環境整備及び、エコ・アイランドとして本庁が取り組んでいる、電気自動車導入による観光客増加に備える上からも必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	時代はまさに電気自動車の普及に向けて加速度を増しており、その先進例である本町内においては教会群及び電気自動車利用目当ての観光客の増が予測される。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	観光客が不便を感じることなく、島内観光地を楽しむため、電気自動車の利用促進のためにも、駐車場の整備が不可欠であり適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	世界遺産登録に向けた環境整備及び電気自動車の導入によって町の認知度が高まりつつあり、利用者の増加が確実である。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	観光関連施設、電気自動車用急速充電器との連携を図ることで成果の向上が望める。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	教会近隣の公道に違法駐車があった場合には、通行の妨げになるばかりでなく、安全性にも不安となり、観光地としての評価に影響が出る。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	類似事業なし。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	最低限の予算の対応となっている。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	最小の人員で行っており削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担はない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在実施している事業の計画を見直す必要はない。
		有効性	観光客の満足度向上と利便性確保のためには不可欠な取り組みであり有効である。
		効率性	現在実施している事業の計画を見直す必要はない。
	課題に向けた改善策	平成24年度以降の整備計画について、関係各課と協議を行い、見直しを含めて検討する。	
	2次評価	妥当性	町の重点施策として推進していくべきもので妥当である。
		有効性	観光関連施設と電気自動車用充電器との連携を図ることで成果の向上に努めること。
		効率性	事業効果を常に検証しながら効率化に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	このまま事業を継続	1次	2次	3次	類似事業と整理統合
	●	●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。